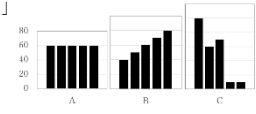
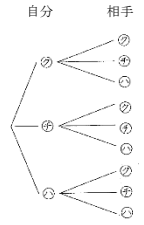


(4) 本時の展開
(5年生)

(6年生)

◆評価 (評価方法)	指導上の留意点 (○●) 支援 (☆)	学習活動と予想される児童の反応	過程	学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点 (○●) 支援 (☆)	◆評価 (評価方法)																																								
<p>◆平均の意味を理解するとともに、平均を求めることができる。(観察・練習問題)</p>	<p>○積み木の凸凹をなくす操作を通して、数量を相殺することを「ならす」というのを理解させる。 ○表を段階的に見せることによって、1日だけの学習時間を比べるのと、何日か分を比べることの違いに気付かせる。 ○BやCのような異なる値では、比べられないことに気付かせ、ならして比べる方法を考えるという見通しをもたせる。 ●Bの合計に目を付けた児童には、等しくに分けるには、どう計算すればよいか考えさせる。 ☆積み木を崩し、等分して同じ高さに積みなおすと考えると、ならしたことになることをおさえる。 ○学習者の振り返りで本時の指導を振り返る。</p>	<p>1 問題を把握する。 ○積み木を動かして凸凹を均す。 「3人の5日間の学習時間を比べる時、それぞれ1日大体何分勉強したと考えたらいいだろう。」  <table border="1" data-bbox="359 459 726 548"> <caption>スタディーウィークの学習時間(分)</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>月</th> <th>火</th> <th>水</th> <th>木</th> <th>金</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>60</td> <td>60</td> <td>60</td> <td>60</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>40</td> <td>50</td> <td>60</td> <td>70</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>100</td> <td>60</td> <td>70</td> <td>10</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table> <p>A わたしは、1日60分ずつ勉強しました。 B ぼくは、月曜日は40分だったけど、少しずつ増えて、5日間で合計300分勉強しました。 C ぼくは、1日に100分勉強した日があります。</p> <p>2 本時の課題を把握する。 数をならして比べよう。</p> <p>3 見通しをもつ。 ・棒グラフの多い部分から短い部分に動かして、同じ高さにする。 ・Bは60くらいが真ん中になりそうだな。 ・計算で求められないかな？</p> <p>4 自分で考える。 ①棒グラフの多い部分から短い部分に動かして同じ高さにする。 ・積み木で考える。 ②学習時間の合計で考える。 ・Bは5日間で合計300分勉強したから、5等分すると、$300 \div 5 = 60$で、1日60分勉強したことになる。 ・Cは5日間で・・・</p> <p>5 みんなで話し合う。 ・Cは合計250分勉強したことになるから、5等分すると、$250 \div 5 = 50$で、1日50分勉強したことになる。 ・Aは合計300分勉強したことになるから、5等分すると、$300 \div 5 = 60$で、やっぱり1日60分勉強したことになる。</p> <p>6 まとめる。 「いくつかの数量を等しい大きさになるようにならしたものを平均と言います。」 合計÷個数=平均をすると、等しい大きさにならすことができる。</p> <p>7 練習問題をする。 「魚の長さの平均を求めよう。」 $(28 + 30 + 29 + 27) \div 4 = 28.5$ 28.5 cm</p> <p>8 学習を振り返る ・図は効果的であったか ・お互いの考えをよりよいものにできたか。 ・一人では気付くことのできなかった新たなことを見いだすことができたか。</p> </p>		月	火	水	木	金	A	60	60	60	60	60	B	40	50	60	70	80	C	100	60	70	10	10	<p>つかむ つかむ 見通す 見通す 考える 考える 練習合う 練習合う まとめる まとめる たし たしかめる かめる たしかめる ふり返る ふり返る</p>	<p>1 問題を把握する。 ○2人組で1回だけジャンケンをして(あいこはあいこのまま)、グー、チョキ、パーの出し方を黒板に掲示する。 「全部の出し方を調べれば、グー、チョキ、パーのどれが一番勝つ可能性が高いか分かるだろうか。」</p> <p>2 見通しをもつ。 ・実際に何回もやってみる。 ・表で調べる。 ・樹形図で調べる。</p> <p>3 本時の課題を把握する。 何通りあるか調べれば、起こり得る可能性も分かるだろうか。</p> <p>4 自分で考える。 <table border="1" data-bbox="869 728 1236 840"> <thead> <tr> <th></th> <th>グ</th> <th>チ</th> <th>パ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th>グ</th> <td>△</td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>チ</th> <td>×</td> <td>△</td> <td>○</td> </tr> <tr> <th>パ</th> <td>○</td> <td>×</td> <td>△</td> </tr> </tbody> </table> <p>・グー、チョキ、パーの出し方は、全部で9通りある。</p> <p>5 みんなで話し合う。 ・グーで勝つのは、9通り中1通り。 ・チョキで勝つのは、9通り中1通り。 ・パーで勝つのは、9通り中1通り。</p>  <p>「全部の出し方をもと(1)にして、グーで勝つ割合を分数で表そう。」 ・グーで勝つ可能性は $1/9$ ・チョキで勝つ可能性は $1/9$ ・パーで勝つ可能性は $1/9$ ・どの場合も割合が等しくなるので、何をしても勝つ可能性は等しいことが分かる。</p> <p>6 まとめる。 起こり得る場合が何通りあるかを調べればその割合で可能性が分かる。</p> <p>7 練習問題をする。 「勝つ割合を分数で表そう。」 ・9通り中3通りだから、$1/3$ ・$1/9 + 1/9 + 1/9 = 1/3$</p> <p>「ジャンケンで考えられる他の場合についても調べてみよう。」 ・あいこになる割合を分数で表すと、グーであいこになるのは1通り。 ・チョキであいこになるのは1通り。 ・パーであいこになるのは1通り。 全部で3通り $3 \div 9 = 1/3$</p> <p>8 学習を振り返る ・並べ方や組み合わせ方を調べるときに、大切だと思うことは何か。 ・並べ方や組み合わせ方を生活のどんな場面で生かせようですか。</p> </p>		グ	チ	パ	グ	△	○	×	チ	×	△	○	パ	○	×	△	<p>○「自分と相手の出し方のパターンはこれで全部か？」と問うことで、落ちや重なりがないように調べる方法について見通しを生むようにする。 ●思いついたものから順に書いて調べている児童には、樹形図や表などで整理ができないか助言する。 ○文字を省略して記号化することで、表や図を簡素化させる。 ●グー、チョキ、パーを出す場合を固定し、それぞれに対応した出し方を表すように助言する。 ○図の着目する部分に印をつけながら、何通り中何通りあるかを割合の式に当てはめて考えさせる。 ◆ジャンケンで勝つことの起こり得る程度を、ジャンケンの全部の出し方をもとにしたグー、チョキ、パーで勝つ場合それぞれの割合に着目して考えている。(観察・ノート)</p>	
				月	火	水	木	金																																						
			A	60	60	60	60	60																																						
			B	40	50	60	70	80																																						
			C	100	60	70	10	10																																						
				グ	チ	パ																																								
			グ	△	○	×																																								
			チ	×	△	○																																								
パ	○	×	△																																											